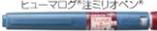
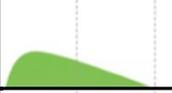
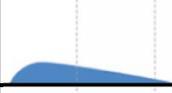


インスリン製剤について

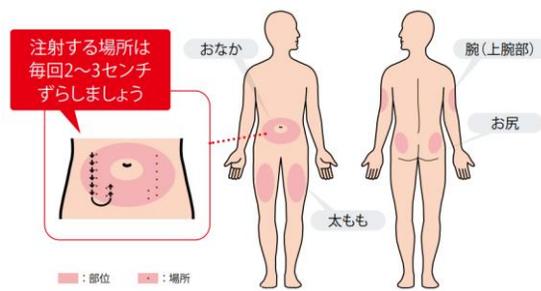
インスリンは、血液中のブドウ糖を細胞に取り込み、エネルギー源にすることで、血糖を下げるホルモンです。インスリンには、食事をとるときに膵臓から分泌されるもの（追加インスリン分泌）と食事に関係なく分泌されているもの（基礎インスリン分泌）の2種類があり、不足している分を注射で補います。

1型糖尿病の患者さんは膵臓からのインスリン分泌がないため、インスリン製剤が必要不可欠となります。また、2型糖尿病の患者さんであっても、妊娠時や、周術期、重要感染症や外傷のある場合、経静脈栄養を実施している場合などでは、インスリン製剤を使用します。そうでなくても、経口血糖降下薬のみで血糖コントロールができない場合にもインスリン製剤を使用することがあります。

○当院で採用されているインスリン製剤とその特徴

		ノボルディスク ファーマ	イーライリリー		作用の イメージ図	特徴
		フレックスタッチ	ミリオベン	バイアル		
超速効型	食直前	ノボラピット®注フレックスタッチ® 	ヒューマログ®注ミリオベン® 			インスリンの追加分泌を補う。 注射後すぐに効き始め、作用が最も短い。
速効型	食事 30分前			ヒューマリン®R注 100単位/mL 		インスリンの追加分泌を補う 注射後30分程度で効き始め、超速効型と比べて ゆっくり効く。
中間型				ヒューマリン®N注 100単位/mL 		インスリンの基礎分泌を補う。 注射後ゆっくりと効き始め、ほぼ1日効果がある。
持効型		トシロー®注フレックスタッチ® 	インスリン グラウギン®S注ミリオベン®「リリー」 			インスリンの基礎分泌を補う。 ほとんどピークがなく、中間型よりも長く効く。 ほぼ1日安定して効果がある。
混合型	食直前		ヒューマログ®ミックス50注ミリオベン® 			インスリンの追加分泌と基礎分泌を補う。 超速効型と中間型インスリン製剤の混合製剤。
配合溶解	食直前	ライソデグ®配合注フレックスタッチ® 				インスリンの追加分泌と基礎分泌を補う。 超速効型と持効型インスリン製剤の配合製剤。

○インスリンを注射する部位について



日本イーライリリー ミリオベン正しい使い方

インスリンの注射は、注射する部位を決め、同じ部位の中でずらしながら打つようにしましょう。同じ部位とするのは、部位によって吸収の速度が異なるためです。例えば、お腹と太ももとは、お腹のほうが吸収が早くなります。また、おへそ周りは、インスリンの吸収が不安定となるため、避けましょう。

同一部位にインスリンを注射し続けると、皮膚が硬くなることがあります。皮膚が硬くなると、インスリンの吸収が不安定となるため、毎回少なくとも2〜3cmずつ注射場所をずらすようにしましょう。

参考文献

血糖値を下げる注射薬 | 糖尿病情報センター
インスリン製剤、GLP-1受容体作動薬 一覧表 | 一般社団法人日本糖尿病学会
各製薬会社ホームページ

薬局では、DI Newsで取り上げて欲しい内容を募集しております。
何かございましたら、院内のメールにて薬局水野までご連絡ください。